

# 子供 仕事を知り職業観養う 大人 伝達力付け発想柔軟に

子供たちに自分の仕事を語り、職業観を養ってもらうとともに、ビジネスに生きるコミュニケーションスキルを身に付けようという試みが行われている。子供が仕事について学ぶキャリア教育の重要性が高まっているが、大人にとっても柔軟な視点から学ぶことが多いという。

(戸谷真美、写真も)

## イメージを持つ

8月下旬、東京都杉並区内の小学校で「コチカラ体験セミナー」と称したビジネスセミナーが行われた。30、40代中心の社会人と小学3〜6年生の子供計約30人が参加。職種は、システム開発や旅行関係などさまざま。

最初に自己紹介と所属する会社などについて全員に話す▽子供たちがそれぞれ興味を持った仕事をしている人のテーブルにつき、仕事の内容やエピソード、働くことの意味などを尋ねる▽テーブルごとにその人の

## 「コチカラ体験セミナー」開催



鈴木さん(左)の話聞き、発表用の新聞を作る子供たち。イメージの難しい仕事を丁寧なコミュニケーションで伝えた—東京都杉並区

会社や仕事を一枚の新聞にまとめ、みんなの前で発表する—という形式だ。子供たちは、「難しそう」「どんなことするの?」など質問や感想を交えながら、それぞれの仕事のイメージをまとめていた。

システム開発会社で人材育成を担当する鈴木朋美さん(47)は「手に取れる商品があるわけではないので、ソフトウェアって何?」というところから。子供にイメージを持ってもらうのが難しかった。切符の自動販売機を例に、「パネルを押すと切符が買えるでしょ?」と話し、その仕組みを作っていると説明したという。

「仕事で話す相手は大抵同僚とか取引先。子供たちにはそういう前提みたいなものがない。年配の人など共通認識がない人と話すときにも、気をつけなければいけないことに気づかされた」と振り返る。小学5年生の女兒は「お話が聞けて

よかった。難しいけれど、システムのことがちょっと分かった気がする」と笑顔を見せた。

他の社会人からも「背景や前提を説明し過ぎると混乱させてしまう」「本気で話さないと興味を持ってもらえない」といった声が寄せられた。

## 仕事と向き合う

セミナーを企画したNPO法人「コチカラ・ニッポン」代表理事の川島高之さんによると、子供たちと仕事について考えることは、分かりやすく伝えるために仕事を見つめ直す必要があることや、既成の枠にとらわれない新しい視点に気づく。こうした点で、ビジネスに生きるコミュニケーション力が磨かれるという。

「自分が提供しているものの価値が何か、ということを見極めるきっかけになる。子供の方も『会社』という漠然としたイメージではなく、具体的な仕事を学ぶ機会になる」と川島さん。現在は企業の社会貢献活動として行われることが多いキャリア教育を人材育成にも活用させていきたいという。